

# 令和7年度 学校評価



港区立にじのはし幼稚園



## 令和7年度 学校評価

港区立にじのはし幼稚園

園長 飯田 美弥

2学期末に実施しました「幼稚園アンケート」「子どもアンケート」へのご協力、誠にありがとうございました。アンケート結果を受け、保護者・教員・学校運営協議会委員、3者の評価の比較、昨年度の結果との比較、自由記述でいただいたご意見、子どもアンケートの幼児の回答から分析・考察を行ったものを自己評価とし、学校運営協議会に提出しました。委員の皆様には学校関係者評価をしていただき、本評価をまとめました。

<全体の状況> (\*A:あてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない E:判断できない)

- ◇幼稚園アンケートの保護者回収率は100%でした。21項目中、16項目は、A・B評価合わせて100%、他4項目については97%以上、1項目91.2%という結果で、保護者の皆様には本園の教育を概ね肯定的に捉え、ご理解いただいていることが読み取れました。
- ◇自由意見では、教育内容や教師の指導、環境、異年齢の関わり(お台場学園の児童・生徒との関わりを含む)、地域との連携、特色ある取組などについて多くの肯定的なご意見をいただきました。また、PTA活動の情報発信、子育てサポート保育降園時間の設定、地域人材の活用、幼小接続への取組などについて、ご意見やご要望をいただきました。
- ◇子どもアンケートは、こども基本法第三条に基づき、子どもの意見を表明する機会を確保し、その意見を学校教育に反映させる観点から港区の方針で実施しています。保護者に幼児の回答を聞き取っていただく形式で実施し、回収率は100%でした。全体の回答から幼児にとって、幼稚園は、それぞれにやりたい遊びがある楽しい場所となっており、特色ある取組は、様々な人との関わりや新たな遊びとの出会いとして効果的に影響していることが読み取れました。幼児の様子や言葉を記載していただいた自由記述からは、幼児の遊びへの意欲や興味関心、教師との関係性が読み取れ、幼児理解や教師の自己理解につなげることができました。講師を招聘する特色ある取組については、幼児の感想を次年度の教育課程編成の参考とします。
- ◇教職員の評価が全体的に高く、保護者の皆様よりも評価が高い項目が多く見られました。その背景には、個人の実践ではなく、園全体の取組として評価していることや、園長・主任以外の教員が人事異動等で入れ替わり、担任体制や環境の大きな変化の中で実践を進めてきたことによる達成感、帰属意識が影響している可能性が考えられます。実際には、日々自らの保育を省察し、悩み、模索しながら保育の質の向上に取り組んでいる現状です。もちろん保育や子どもの育ちに手応えを感じている面はありますが、現状に満足することなく、子どもたちの育ちを丁寧に見つめながら真摯に取り組んでまいります。
- ◇学校運営協議会による学校関係者評価では、以下のようなご意見をいただきました。
  - ・アンケートの結果を丁寧に分析・評価しており、結果自体にも特に問題はなかった。昨年度の検討事項はすべて改善されている。数値だけでは読み取れない保護者の思いがあることも念頭におく。
  - ・外国人保護者への対応について、昨年度の結果から情報発信の工夫を図ってきたことが、保護者理解につながっている。日本の教育を伝えるだけでなく、保護者の国の文化を理解し、相互理解を図りながら折り合いをつけていくことが大切である。
  - ・幼稚園だよりは、保護者以外の方にも園の取組の詳細が分かりやすい内容となっているが、作成に負担が生じているようであれば、掲載内容をやや削減してもよいのではないかと。
  - ・ネイティブティーチャーが派遣され「英語による活動」が行われているが、単なる語学学習ではなく、幼児期にふさわしい活動内容に工夫されているのが、子どもアンケートの結果から伺える。
  - ・長時間の預かり保育について、保護者の様々なニーズがある。保護者の気持ちを受け止めることも大切だが、子どもの育ちということに関して保護者がどのように子どもと関わっていけばよいのかを学んでいくことができるよう、保護者を育てていくことも大切である。
  - ・自由意見に、小学生のきょうだいがいる保護者から、就学後、やるべきことが急に増えたことへのギャップや戸惑いについて記述があった。保護者からは幼稚園での宿題の設定や就学前の保護者への啓発などが提案されていたが、幼児教育に宿題のような課題を求めるのではなく、小学校側が、1年生に求める量や内容を考えていく必要があるのではないかと。架け橋プログラムにおいては幼児教育が小学校の前倒しの教育をするのではなく、小学校低学年が子どもの発達の状況に合わせた指導を工夫することで緩やかなスロープにしていくことが求められている。園と学校の双方から、保護者に対し、幼小の連続性ある教育についての理解を図るアプローチが大切になってくる。
  - ・主体的な学びが幼児教育から小学校教育、中学校教育につながっていくよう、幼小中の先生方が子どもたちの育ちのビジョンを同じ方向にもっていけるとよい。特に幼児期の遊びを通じた学びと小学校低学年の生活科を核にした子どもの経験と興味関心を生かした総合的な指導のあり方を今後も追究していく必要があるのではないかと。
  - ・子どもの姿からカリキュラムをつくり、子どもの思いから遊びを豊かに広げ、その育ちを保護者や地域の方に分かりやすく伝えていく専門性を今後も大切にしてほしい。

## <主な項目についての分析・考察、改善策等>

### 【幼稚園運営】

○小項目1 本園の経営方針について理解している。

○小項目2 園だより、学級だより、ホームページ、Xなどで幼稚園の情報を発信している。

昨年度、本2項目において、外国籍保護者への情報発信についての課題があがりました。様々なツールを活用した積極的な情報発信や、地域ボランティアによる日本語教室などの取組により園への理解を深めていただくことができ、該当保護者の評価は、今年度はA評価に改善しました。改善に向けての手立ては有効であったと考えますが、新たに入園された外国籍保護者の評価からは未だ情報共有に課題があることが読み取れます。知って、理解していただくまでに、ある程度の時間は必要と考え、通訳をしてくださる学級内の保護者も含めて協力を仰ぎながら、長期的に個別の配慮を行っていきます。

○小項目4 教職員は、PTAや地域の活動に協力的である。

保護者のE回答(判断できない)が8.8%と一番多い項目でした。保護者の自由意見にも、自分が関わっていない活動を知らないことへのご懸念がありました。数年前から園児数の減少に伴い、PTA活動の負担軽減を図り、園との共催行事を削減したり、役員会の内容や係活動を周知する広報誌を廃止したりしてきたことから、園内外双方で活動や園との連携を知る機会が少なくなっている現状です。役員会の議事録の配信、配信時の送付文やXで各係の活動や園との連携について紹介をしていきます。

○小項目5 保護者や地域の協力を得て子どもの体験を積み重ねている。

学校運営協議会委員・教員はA評価100%、保護者もAB併せて100%の回答でした。地域・保護者・幼稚園が三位一体となり、幼児の活動を支える体制ができていることに改めて感謝申し上げます。保護者の皆様はもとより、学校運営協議会・地域コーディネーター・地域ボランティアの皆様も、幼稚園の心強い応援団です。地引網やにじっこまつり、餅つき、就学前通学歩行体験など、幼児の体験の充実に向け、様々な場面でご協力をいただいています。特に地域との関わりについては、ここ3年間、「地域と幼稚園」ではなく、「地域の方と子どもたち」をつなぐことを意識して子どもたちの体験を積み重ねてきました。5歳児の姿からは、地域の方の存在が、親しみや身近な大人への信頼感を超えて、「いつも自分たちにうれしいことをしてくれる温かな存在」となっていることが伝わってきます。

幼児には、地域の方や友達の保護者との関わりを通して、家族や園・学校の教職員以外にも自分たちのことを大切に思ってくれる人がいることを感じながら、お台場の街の子として心豊かに育ってほしいと願っています。保護者の皆様にも、幼児の育ちを共に支えてくださる方が地域にいることを知っていただき、学校・園と地域が連携して幼児を育てていくコミュニティースクールの教育に引き続きご理解・ご協力をお願いいたします。

○小項目6 学園の児童・生徒との交流や施設の活用を積極的に進めている。

保護者・学校運営協議会委員・教職員、3者ともA・B評価併せて100%の回答でした。お台場学園の施設の活用では、5歳児が7月にプールで遊ばせていただきました。また、残暑が厳しい中、空調の効いたアリーナを何日も貸していただき、心地よい環境の中で、体を動かす遊びを繰り返し楽しみながら運動会に向かう取組を無理なく行うことができました。広い校庭も日常的にお借りしています。また、年度当初に計画している9年生と3・4歳児、1・2・5年生と5歳児、図書委員との交流の他に、日常的に8年生が通常の保育時間や預かり保育の時間に幼稚園に来て、子どもたちと関わってくれています。引き続き、同じ敷地内にある利点を生かし、日常的な関わりを大切に取り組んでいきます。様々な学年の幼児・児童・生徒一人ひとりが、互いに思いをもち関わり合う中に、多様な人と共生し、豊かに生きていく力の基盤の育ちがあります。幼児・児童・生徒の互恵性ある育ちを教員間で相互理解しながら引き続き取り組んでまいります。

### 【教育内容・指導】

○小項目13 子どもが生き物や植物等の自然と関わる環境を充実させている。

保護者・教職員の評価はAB併せて100%でした。今年度は、区の環境課の支援を受け、ビオトープの環境について教員が学んだり、子どもたちに園庭の生き物の観察会を行ったりしました。栽培活動では土づくりから栽培収穫まで、一連のサイクルを経験しています。今年度は、ミカン、柿が豊作で、味わう喜びだけでなく、収穫体験を通して幼児が試行錯誤したり、異年齢での関わりが生まれたりするなど、体験の充実につながりました。保護者の自由意見にも本項目を評価する記載をいただきました。引き続き、体験を豊かにする環境づくりや援助の工夫に努めてまいります。

○小項目14 異年齢の育ち合いやかかわり合いを大切にした教育を進めている。

○小項目16 園内研究・研修を実施し、保育の充実に努めている。

昨年度に引き続き、異年齢の関わりを重点に園内研究に取り組んできました。行事や意図的に設定した交流活動、日常の遊びや生活の場面での関わりの中で、「子どもが自ら思いをもち相手に関わろうとする姿」を大切にしてきました。関わりが積み重なるにつれて、子どもたちが相手に抱く思いや関わり方が少しずつ変容し、教員はそれを丁寧に読

み取り共有しながら、活動の持ち方や環境構成、教師の援助について試行錯誤しながら学んできました。幼児の育ちも教師の学びも次年度につなげていきます。

昨年度、小項目16について学校運営協議会委員からCDE評価がありましたが、今年度は学校運営協議会の中で園内研究会での取組や学びについて紹介させていただきました。E評価(判断できない)の回答が2名ありましたが、その他はAB評価をいただきました。引き続き、発信の機会を大切にしていきます。

## 【安心・安全】

○小項目17 避難訓練、安全指導を実施し、幼児の安全に対する構えを育てている。

小項目18 施設を安全に保つとともに、部外者の侵入を防ぎ、安全な環境を整えている。

小項目19 感染症やアレルギー等に留意し、幼児の健康で安全な園生活に留意している。

安心・安全は園経営の基盤です。3項目とも、保護者・教員ともに、A・B評価併せて100%の結果でした。今年度より、正門にオートロック錠が設置され、カメラとインターホンで来園者を確認して開錠できるようになり、安全性と利便性が向上しました。また、1学期に登り棒から子どもが転落する事故がありました。区に要請し、登り棒と鉄棒の下にクッション材となるゴムチップを入れる工事をしていただきました。施設面や人員の配置による安全管理はもちろん、幼児自身が非常時や日々の生活の中で、自分の身を守ったり、危機回避したりできるよう、自分で「見て、聞いて、考えて」行動できる幼児の育成を目指します。引き続き、園児や保護者の皆様が安心して通える幼稚園を目指して、安全管理に努めてまいります。ご協力をお願いいたします。

## 【その他】

○小項目20 幼稚園は特色ある活動を推進している。

保護者・教職員の評価は A・B併せて100%でした。講師を招聘した幼児の遊びや体験を豊かにするための様々な活動や、お台場の海を始めとする地域の自然を生かした活動、地域の人や施設と連携した活動など、幼稚園では様々な特色ある教育を推進しています。

引き続き、幼児の発想や、やってみたいことから柔軟に活動を創出したり、フットワーク軽く地域に飛び出して活動したりするなど、少人数保育の利点を、園の特色ある活動に生かしていきたいと思えます。

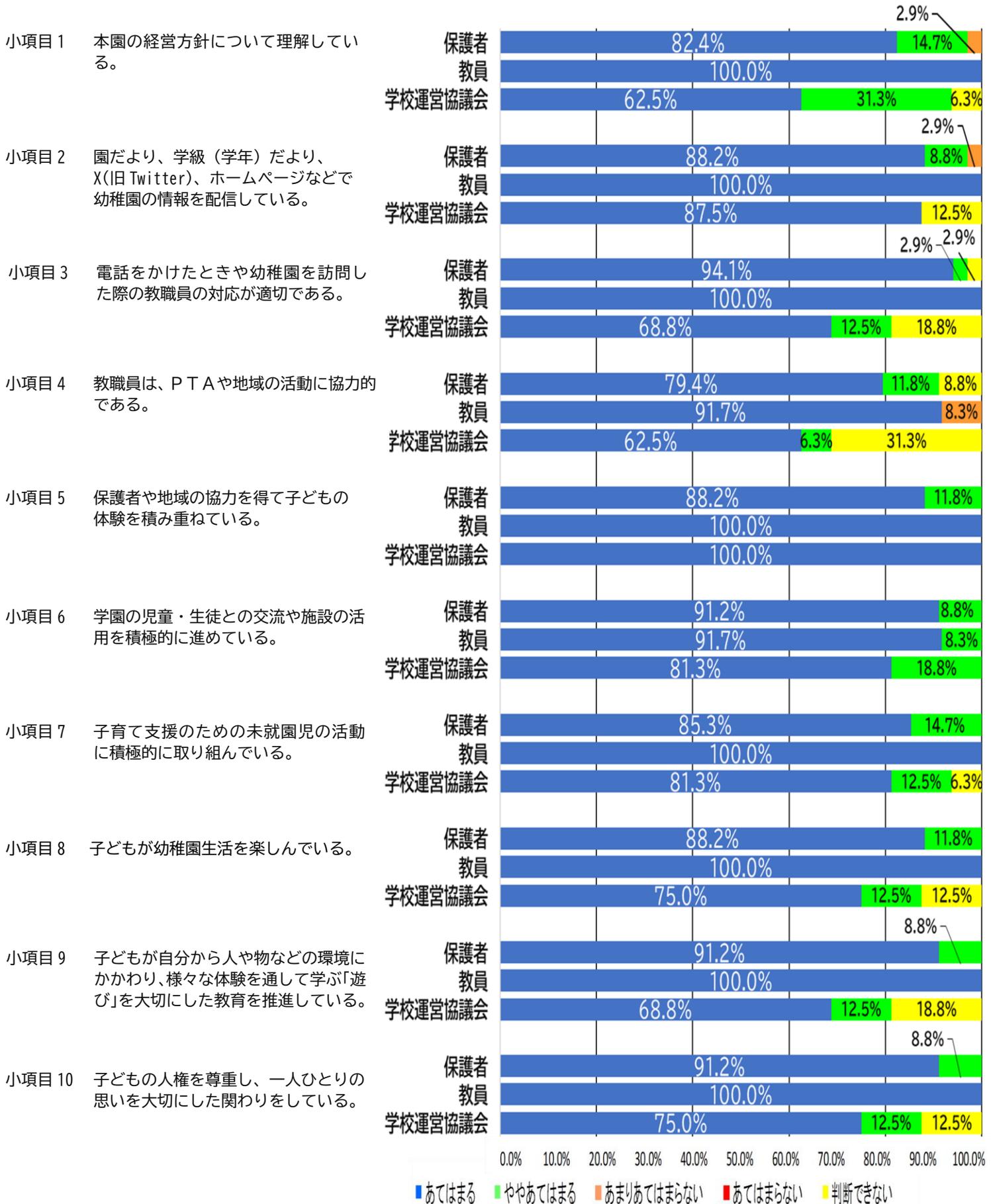
## <次年度取組の骨子>

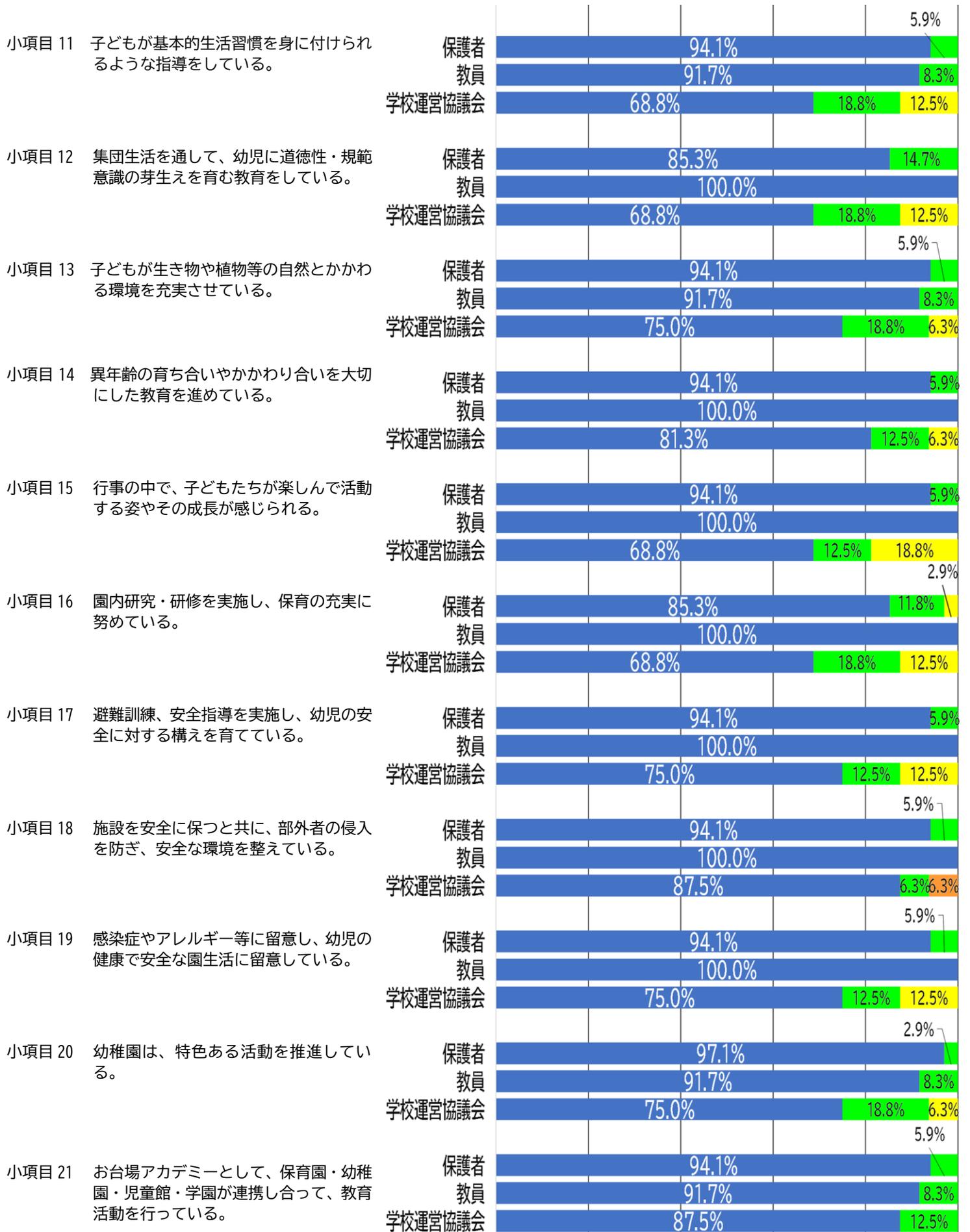
○お台場学園、地域の保育園、敷地内に開設する乳幼児一時預かり施設と連携し、互惠性ある異年齢の関わりを醸成していきます。また、架け橋期の教育について保幼小で共通理解を図り推進に努めるとともに、保護者の方にも幼小の連続した教育について発信していきます。

○主体性や思いの実現を重視し、子どもの興味・関心や発案から遊びや活動を創出します。小規模園の特性や地域の教育資源を生かし、体験の充実を図ります。

○地域に開かれた幼稚園としての取組の継続、発展に努めます。

# 令和7年度 幼稚園アンケート結果





0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%

■ あてはまる ■ ややあてはまる ■ あまりあてはまらない ■ あてはまらない ■ 判断できない

## 【自由意見】(○…肯定的なご意見、●…課題や改善に向けていただいたご意見)

以下は、「自由意見」にいただいた全てのご意見を記載しています。課題や改善点については「▶」に、現状のご説明や改善に向けての方向性を記載しています。皆様からいただいたご意見・ご感想を参考に、引き続き教育活動の改善・充実を図ってまいります。

### 保護者

#### <園運営について>

- 日頃より、子どもたちのために温かく丁寧なご指導をありがとうございます。園での様子を細やかに共有していただけることや、行事・日々の活動がいつも安心感のある運営で行われている点に感謝しております。また、先生方の雰囲気がとても穏やかで、子どもが毎日楽しそうに登園できているのは、その環境づくりのおかげだと思っています。サポート保育も、保護者が利用しやすいよう配慮されていると感じています。特に大きな改善点はありませんが、引き続き子どもたちが楽しく安全に過ごせる環境づくりをお願いできれば幸いです。
- どんどんサポート保育の時間が長くなっていき、先生方の負担になってないか心配。保育時間が少ない分、濃くて内容ある教育が受けられると思って幼稚園を選んでいるので、(公立幼稚園の教育の充実を図る施策を考える際に)比較するのは保育園でなく私立幼稚園にしてほしい。また来年度から未就学児の一時預かりが、同じ幼稚園で実施されるのはとても不安。
  - ▶教職員の負担へのご配慮、ありがとうございます。園児数減少の背景には、保護者のニーズと公立幼稚園の運営体制に少なからずズレがあることは否めません。公立幼稚園として教育の質の維持・向上に努めながら、それを広く提供していくため、柔軟な運営体制の確立に港区と共に取り組んでまいります。今年度より、会計年度任用講師に加え、預かり保育等担当教員の配置、勤務時間帯の調整など、保育時間の延長に向け、持続可能な運営体制づくりが進められています。乳幼児の一時預かりは、別の事業者の運営となりますが、連携を図りながら、子どもたちが安心して過ごせる環境の維持や互恵性のある関係づくりに努めてまいります。
- 今年度から午前保育時でも基本的にはサポート保育が実施されること、また、来年度から通常時及び長期休業中に終了時間が延長されることは、いずれも家庭保育の助けになりありがたいです。
- 夏季、冬季の預かり保育の終わり時間を選択制にさせていただきたいです。
  - ▶次年度より、長期休業中の預かり保育も通常保育時と同様に、18時まで延長されます。お子さんにとって負担のないご利用をしていただくために、降園時刻も通常保育時と同様、選択制といたします。

#### <地域との連携、コミュニティスクールとしての運営について>

- 地域の人や保護者の繋がりが深いところが本当にいい所だと思う。沢山の大人が見ててくれるよ、安心して遊んでね、という幼稚園の環境が子どもにとって非常に良いと感じる。
- 子どもたちが興味ある事を学びたい！と発信したタイミングで、その先生(得意な人)がきてくれるような子どもたち発信の活動があれば良いと思う。お台場在住の保護者は色々な特技や趣味をもっているのもっとお台場の大人達に投げかけて巻き込んで色々な活動も出来るのではと思った。(例えば海の生き物の絵を上手に描きたいと思った時に、絵を教えてください！と地域や保護者に募集をかけて教えてもらおう機会を作るなど)
  - ▶子ども発信の主体的な活動は、園の教育の中でとても大切にしていることですので、保護者の方が同じ思いでいてくださることをとてもうれしく思います。ご記述いただいた通り、有り難いことにお台場は地域人材にとっても恵まれています。今年度も地域の方にお話会やピアノコンサートをしていただいたり、SDGsに関連する仕事をされている保護者から5歳児が話を伺ったり、友達の国のことに興味を持ったときに外国人保護者をお招きし、文化や食べ物などについて教えていただいたりしたこともありました。地域や保護者の方にお力をお借りすることは、子どもたちにとって単に魅力的な大人と出会い体験や学びを広げるというだけでなく、地域の方とつながる大切な機会でもあります。「子どもたちのために」と尽力してくださる地域の方との温かな関わりが生まれる場としても大切にしていきたいと考えています。子どもたちの「やってみよう！」「知りたい！」から活動を創出していくとともに、地域の人材活用に加え、ときには園から飛び出して、地域の環境や施設と関わる機会を柔軟に取り入れながら、子どもたちの想いの実現や体験の充実を図っていきたくと思っています。幼稚園から保護者の皆さまにご協力をお願いすることもあると思います。今、幼稚園にご尽力くださる地域の方の多くは、本園の修了児保護者でもあります。地域の子どもたちを大切に想ってくださる温かなバトンが繋がっていくよう、未長くお力添えいただけましたら幸いです。

#### <教育活動・教師の指導について>

- 様々な講師が来て色々な事を学べる機会が多くて良い。
- よくできてました。
- 幼稚園が大好きで、毎日充実した時間を過ごしているんだなあ、本当にありがたいです。
  - また、毎日遅くまで子どもたちの為にありがとうございます。
- いつも子どもの気持ちに寄り添っていただき、したいこと、やりたいことを実現させてくださりありがとうございます。
- 教育内容、教諭の対応、事務手続きなど、概ね満足しています。ありがとうございます。
- 先生ありがとうございます。

#### <異年齢の関わりについて>

- 少人数ならではの他学年との関わりや、小中学校との関わりは、子どもたちにとって大変良い環境だなと感じています。

### <特色ある取組・環境を生かした活動について>

- NTの活動も自然に英語に触れる良い機会を与えてくださっています。
- 園庭で野菜や果物を育て、収穫し、加工して食べる一連の経過が、食物への興味関心を育み、とてもよい影響を与えていると感じています。また、日本の伝統行事に触れられる取組み(たとえば、七夕の笹飾りや、お月見のときの飾りなど)も、伝統を知るきっかけとなっているようで、ぜひ継続してほしいです。
- お台場ならではの地域を生かした活動をしていただいたり、日本にちなんだ行事、親が教えてあげられないことをやっていただいたりしているので感謝しています。子どもたちも休日も「幼稚園行きたい！」って言ったり、朝起きる度に「今日は幼稚園？」って聞いたりするくらい大好きです。

### <PTA活動について>

- 保護者が参加しやすいように配慮されていると感じます。
- PTA活動については、まだまだ保護者の方に周知されていない事などもあり、発信と共有が必要だなと感じます。
  - ➡詳しく内容を伺うと、役員会での協議内容や、各係の活動など、自分が関わっていない活動を知らない方が多いのではというご懸念でした。過去には、PTA役員会が開催される度に広報係が、PTAだよりを発行し、その月の係活動も含めて周知をしていましたが、広報誌の作成は負担が大きいとの声があり、廃止した経緯があります。PTA役員会では書記の方が議事録を作成してくださっていますので、次回以降は、PTA役員会議事録をコドモンで配信します。係活動については、これまで通り、Xで幼稚園から配信してまいります。Xのフォローにご協力をお願いします。

### <幼小接続について>

- 港陽小に進んだ姉を見ていると、幼稚園で取り組んでいることと、小学校に上がってから求められることに多少ギャップがあるように感じる。(別で私塾に通っていて勉強面ではキャッチアップできているのに)小学校に上がって急にすることが増えて戸惑っている感じがありました。たとえば勉強的なものでなくてもいいので宿題を与える、親が子どもに期待してほしいことを徐々に変えていくなど、せっかく同じ敷地にあってプレスクールなどの取組みもあるので、もう少しつながりのある取組みがあれば更に良い幼稚園としてアピールできるのではと思います。限られたリソースや区の教育方針などの制約でできないこともあるかもしれませんが、日々の意識としての取組みや、小学校とのすり合わせの場を持つなど、できる範囲で進めていただけたらと思います。
  - ➡率直かつ、貴重なご意見をお寄せいただきありがとうございます。お子さんや保護者の方が就学後に感じられた戸惑いやギャップについて、真摯に受け止めております。いわゆる「小1ギャップ」を緩和するために、文部科学省からも「架け橋期の教育」が示され、全国の学校園で取組が進められているところです。お台場アカデミーにおける保幼小合同研修会では、5歳児3学期の幼児の姿を小学校教諭が参観したり、就学当初の1年生の様子を幼稚園教諭が参観したりして、子どもの実態や発達、課題を相互に共有しています。また、栽培活動(生活科)、絵画製作(図画工作)等の視点で保幼小のそれぞれの実践を共有し、学びと指導の連続性について協議するなど、幼児期に育まれた学びや育ちが小学校以降につながっていくよう、連携に努めているところです。保護者の方やお子さんを感じられているギャップや戸惑いについても、アカデミーで共有し、異校種間の相互理解を深めながら滑らかな接続を図ってまいります。なお、幼稚園では、家庭に持ち帰る「宿題」はありませんが、例えば、誕生会までに友達へのプレゼントをつくる、七夕までに数種類の飾りをつくるなど、作り方を知らせた上で、一定期間に自分で行程や数、日数の見通しをもち、主体的に課題に取り組むことをねらった5歳児の活動は、小学校以降の学習や宿題に取組む姿勢にもつながっていくものと考えています。幼稚園では、知識や技能を先取りすることよりも、自分で考える力、話を聞く力、やってみようとする意欲、生活の見通しをもつ力など、学びの土台となる力を日々の遊びや生活の中で一体的に育むことを重視しています。一方で、小学校に入学すると生活や学習のスタイルは大きく変化します。港区の小学校では今年度より、入学直後はクラスや担任を固定せず、複数の教員で子どもたち一人ひとりの様子を丁寧に見取りながら学級づくりを進めるプレクラス制が取り入れられています。これも、幼児期の育ちを尊重し、急激な切り替えによる負担を和らげようとする、架け橋期の教育の考え方に基づく取組です。小学校への接続が、「ギャップ」ではなく、「楽しみな次のステップ」となっていくよう、引き続き、保幼小の連携を深めてまいります。また、保護者の皆様にも、幼児期から学齢期への育ちの連続性について、分かりやすくお伝えできるよう努めてまいります。

### 運営協議会委員

- 各クラス発達段階に応じた保育をしている。
  - 異年齢保育も自然に交わるように、子どもたちが自由に伸び伸びと活動している。
  - 職員の方々も愛情ある丁寧な保育をしているのが良くわかる。
- 地域交流を積極的に行っている様子が伺え、特に、5歳児の交流の機会をたくさんつくっていただき、子どもたちが顔見知りの仲になりつつある様子が見られていて、感謝している。
- 地域に根ざした幼稚園として、お台場学園、各保育所、児童館等と協働して教育実践を続けておられる姿勢に感銘を受けております。まことに微力ながら、応援させていただきたいと思っております。
- 子ども一人ひとり、大切に触れ合っていると感じています。
- 園のお便りで保護者以外の者にとっても園の取組みの詳細を分かりやすくお伝えいただいていると思います。ただ、毎回の分量が多くて作るのに負担が生じているようであれば、内容をやや少なくしてもよいかもしれないとも思います。
  - ➡毎月の幼稚園だよりをご覧いただき、ありがとうございます。途中入園の方もおられるので、初めての方でも分かりやすいようにと詳細を掲載している部分もありますが、文字が多いことによる読みづらさもあると思いますので、時期や状況に応じて掲載内容を吟味してまいります。

# にじのはし幼稚園 令和7年度子どもアンケート

## 1. 幼稚園は楽しいですか？

\*理由をお子さんが話していれば、お書きください。



○幼児にとって幼稚園が安心して楽しく通える場所になっているかを読み取る項目です。2名以外は「はい」と回答し、理由の記述からは、幼稚園で遊びたいことや友達の存在をあげる幼児が多く、幼児にとって幼稚園が毎日行きたい場所となっていることが読み取れました。「いいえ」、「どちらでもない」と答えた2名については、できごとや状況、思いを教師が把握し対応しています。教師が安全・安心の基地となり、発達や個々の実態、状況を鑑みながら、指導・援助をしています。

## 2. 幼稚園では何をして遊ぶのが好きですか？

\*お子さんの言葉を聞き取ってお書きください。

\*すぐに答えた、しばらく考えていたが答えられなかったなど、可能であればお子さんの様子も教えてください。

○ほとんどの幼児が自分の楽しんでいる遊びを具体的に答えていました。回答の様子については、「即答でした。」「少し考えていました。」などの記述がありました。この設問からは、幼児の遊びへの意欲、興味・関心、主体性の育ち、遊び環境の充実などについて読み取り、指導の改善に向けて分析・考察しました。この問いかけで、「中学生のお姉さんたちと遊ぶこと」という回答がありました。お台場学園との交流が日常的かつ、幼児にとってうれしいこととなり、つながりができていることが伺えました。遊びの内容や環境の充実に向けて、園全体でカンファレンスを行いながら取り組んでまいります。

## 3. うれしいことや楽しいことがあったとき、困ったことや悲しいことがあったとき、先生はお話をきいてくれますか？



○教師との関係性を読み取る項目です。「はい」の回答94%からは、教師との信頼関係や、教師に受け止められている安心感が伺えました。「いいえ」の回答が2名いました。回答時の幼児の様子や言葉、保護者の読み取りを担当に共有していただき、保護者と幼児理解を共通にしなが、個別に対応しています。

## 4. 小学校・中学校のおにいさんおねえさんが絵本を読んでもくれたり、一緒に遊んでもくれたりしました。

小学校・中学校のおにいさんおねえさんに、また絵本を読んでもらったり、一緒に遊んでもらったりしてほしいですか？



【その他】1名…まあまあ。(恥ずかしいから。)

○97%が「はい」の回答でした。優しく関わってもらいながら楽しい経験を重ねています。恥ずかしいからという理由で「まあまあ」と回答した幼児がいましたが、交流の回数が昨年度より増え、初めて来てくれたお兄さんお姉さんにも、緊張することなく、すぐに一緒に遊びだす姿が見られています。単発の交流ではなく、継続していく中で人間関係や心情が育まれていくことを念頭に、互恵性のある交流となるよう充実を図っていきます。



5. 幼稚園にたくさんの先生がきてくれました。楽しかったもの、またやってみたいものはどれですか？

○を付けてください。(複数回答可)

a. ラグビー (5歳児)

b. ボルダリング (4・5歳児)

c. ダンス



d. ヨガ

e. お茶会

f. おはなし会



3歳児	ダンス 26%	ヨガ 21%	おはなし会 21%	お茶会 32%		
4歳児	ボルダリング, 24%	ダンス, 22%	ヨガ, 18%	おはなし会, 22%	お茶会 14%	
5歳児	ボルダリング, 23%	ダンス 13%	ヨガ 13%	おはなし会, 33%	お茶会 17%	ラグビー 23%

○複数回答可としました。保護者の自由記述からも楽しい体験となっていることが読み取れました。ボルダリングとラグビーにおいては、まだ経験していない学年の幼児も、きょうだいや異学年の取組を見て「早くやってみたい」と回答する幼児もいました。幼児の回答を次年度の教育課程編成の参考とします。

6. ネイティブティーチャーの先生と、何をして遊ぶのが楽しいですか？



○歌、ダンス、ゲームなど一斉活動のアクティビティだけでなく、好きな遊びの中での関わりやネイティブティーチャーへの親しみの気持ちをあげる幼児もいました。「英語の時間に英語を教える人」ではなく、幼児の日々の遊びや生活の中にネイティブティーチャーがいて、一緒に遊んだり、生活したりしながら、自然に英語も使ったコミュニケーションが生まれ、その関わりの中で英語を話す力だけではなく、豊かな国際感覚の芽生えや多文化共生の素地が育まれるようにしています。幼稚園教育の中に英語の活動を取り入れる意図をネイティブティーチャーとも共有し、アクティビティも、発達や時季に応じ、遊びを通して英語に触れる内容になるよう、担任と連携を図っています。幼稚園にネイティブティーチャーが配置されて2年目となり、幼稚園での国際理解教育について教師の学びも深まっています。